



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第46号(R5. 2. 14)

雪は降りつつある しかし春は来たりつつある
寒さは強くある しかし春は来たりつつある
内村鑑三の詩『二月中旬』より

2月に入っても、河東中生は入試に定期考査、部活動やクラブ、何に対してもよく頑張っています。そして、春はもうそこまでやっています。

陸上部、新人駅伝福岡県大会で男女アベック準優勝!!



2月11日(土)春の日差しが感じられる中、北九州市立本城公園周回コースで開催された福岡県中学校新人駅伝競走大会。またしても本校陸上部が快挙をとげました。男女そろって準優勝に輝きました。女子は35分46秒。中園桜子さん(5区)は5区の区間賞を取りました。男子は1時間6分25秒。6区の橋本隆太郎さん(6区)は6区で大会新記録をマークし区間賞を取りました。

これで本年度の中体連大会の全ての競技が終了しましたが、河東中は有終の美を飾ることができました。夏の中体連大会やコンクールまであと半年です。7・8年生の部活生・クラブ生、一日一日の練習の積み重ねを大切に頑張りましょう。

家庭科部と美術部、河東コミセンの文化祭に作品展示で参加



2月4・5日に河東コミュニティセンターで文化祭が開催されました。本校の家庭科部と美術部の作品を展示していただきました。家庭科部は部で制作した小物の販売も行い、地域の方にたくさん購入していただきました。

7年生の刀根遥緋さん、村上七海さん、宮原蒼さん、バトントワーリングで九州大会に出場!

2月10日、第4回全日本バトントワーリングジュニア選手権九州大会が長崎県立総合体育館で開催されました。この大会に本校7年生の刀根遥緋さん、村上七海さん、宮原蒼さんの3名が出場しました。トゥーバトンの部で刀根さんは見事5位に入賞しました。この大会は全国大会につながっていますので、刀根さんは3月25・26日に静岡県浜松市の浜松アリーナで開催されるバトントワーリング全国大会に出場が決まりました。みんなで応援しましょう。

人間が一番うれしいことはなんだろう？ ～「アンパンマン」の作者・やなせたかしさんの伝言～

河東中の掃除時間は「アンパンマンのマーチ」の曲が流れて始まります。絵本やアニメの名作「アンパンマン」の作者である“やなせたかし”さんが亡くなって今年で10年になります。しかし、小さな子どもたちの人気はおとろえません。アンパンマンに登場するキャラクターの愉快さはもちろん作品に流れるやなせさんの思いに幼児ばかりか大人も共感しているのでしょう。今回と次回の2回に分けてやなせさんの人生観と思想を紹介します。

やなせさんは1919年に高知で生まれました。絵を描くことと、文章を書くことが好きな少年でした。幼くして両親と別れ、おじ夫婦に育てられます。彼の思想に決定的な影響を与えたのは20代で日中戦争に従軍した悲惨な体験でした。



戦後、三越の宣伝部勤務などを経て、漫画家として独立します。しかし、長く売れない漫画家として苦悩の日々を過ごします。「アンパンマン」が絵本になったのは55歳の時でした。かなりの遅咲きでした。アニメとして「アンパンマン」がテレビ放送された時には69歳になっていました。

やなせさんが、この作品を書こうとした動機は、彼が人生の中で最もつらかった戦争体験にあります。「本当の正義って何だろう？」「生きる意味って何だろう？」という問いが常に頭から離れませんでした。考え抜いた末、「唯一正しいと言えることは、自分の利益を顧みないで他の人のために尽くすこと」という答えにたどりつきました。作品の中でも、悪者を退治するヒーローではなく、焼け焦げだらけのボロボロのこげ茶色のマントを着て、恥ずかしそうに登場し、自分を食べさせることによって飢えている人を救う、自分を犠牲にして他の人を助けるヒーローを描こうとしました。

やなせさんは、晩年こう話しています。「人間が一番うれしいことはなんだろう？長い間、ぼくは考えてきた。そして結局、人が一番うれしいのは、人をよろこばせることだということがわかりました。人は、人がよろこんで笑う声を聞くのが一番うれしい。だから、人がよろこび、笑い声を立ててくれる漫画を長く描いてきた。自分が描いた漫画を読んで子どもたちがよろこんでくれる。その様子を見て、自分がうれしくなる。家族が一生懸命に料理をつくるのは、「おいしい」とよろこんで食べる家族の顔を見るのがうれしいからだ。家族が汗をかいて仕事をするのは、家族のよろこびを支えるためだ。学問が得意な人は学問で人を喜ばせ、絵を描ける人は絵を描くことで、歌える人は歌で人を喜ばせよう。」河東中のみなさんは、今も将来も、ぜひ家族を喜ばせ、友達を喜ばせ、自分の仕事で人を喜ばせるそんな人になっていってください。

アンパンマンが絵本として出版された当初、この本に対して世間は冷やかかでした。出版社の人は、「こんな本はこれ1冊にして」と言っていましたし、幼稚園の先生たちは、「顔を食べさせるなんて残酷だ」と顔をしかめました。評論家は、「こんなくだらない絵本は図書館に置くべきでない」と酷評しました。しかし、アンパンマンの人気は、小さな子どもたちから次第に火がついていきました。

それは、やなせさんのメッセージが純粋な心の子どもたちに素直に伝わったからです。アンパンマンは、それまでのヒーロー像とは異質のものでした。戦後のヒーローは、スーパーマンやウルトラマンのように強くたくましく、かっこよく悪者や怪獣をやっつけこらしめるものでした。一方、アンパンマンは、空腹の人に自分の顔を食べさせて助けるヒーローです。また、誰かを助ける人は自分もどこかで傷ついたり痛んだりしている、というメッセージも含まれています。さらに、敵であるばいきんまんも排除してしまうのではなく、時には仲良くしたり共生しようとしたりします。この点でも従来の善悪二元とは違った展開が見られます。私が5歳の時に見たスペシウム光線で怪獣を粉々に爆破するヒーローと、我が子たちが5歳の時に見ている暖色のまんまる笑顔のヒーローとの違いに時代の変化を感じました。…次号に続く。